# Ⅳ-6 中国・四国

宿泊者数は中国・四国全体で前年比27.3%増
城や観光施設が相次いで新規・新装オープン
観光DXの取り組みも

### (1)都道府県レベルの旅行者動向

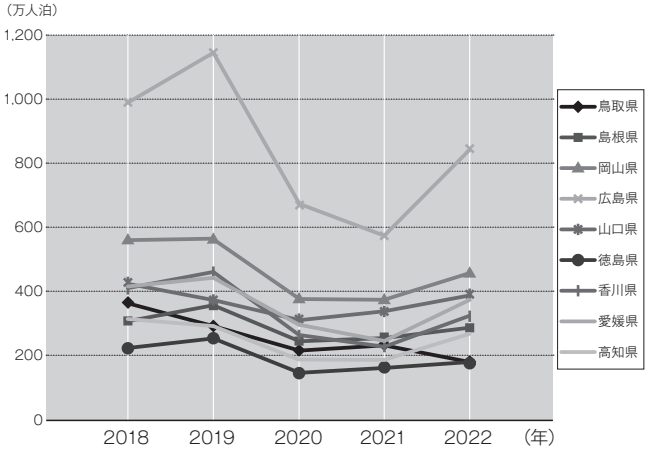
観光庁「宿泊旅行統計調査」によると、2022年1月から12月の中国・四国全体の延べ宿泊者数は3,319万人泊となり、2021年比で27.3%増、2019年比で21.2%減であった。

延べ宿泊者数は鳥取県以外で前年から増加し、愛媛県（前年比48.1%増）、広島県（同46.1%増）、香川県（同42.8%増）、高知県（同34.3%増）、岡山県（同23.5%増）、山口県（同18.9%増）、徳島県（同15.2%増）、島根県（同9.5%増）、鳥取県（同17.7%減）であった（図Ⅳ-6-1）。

2022年1月から12月の中国・四国全体の外国人延べ宿泊者数は37万人泊となり、前年比で111.6%の増加であった。

外国人延べ宿泊者数は島根県と愛媛県以外で前年から増加し、広島県（前年比228.2%増）、岡山県（同170.0%増）、香川県（同150.8%増）、山口県（同148.2%増）、徳島県（同88.4%増）、高知県（同13.0%増）、鳥取県（同12.3%増）、島根県（同3.0%減）、愛媛県（同5.3%減）であった（図Ⅳ-6-2）。

**図Ⅳ-6-1　延べ宿泊者数の推移（中国・四国）**

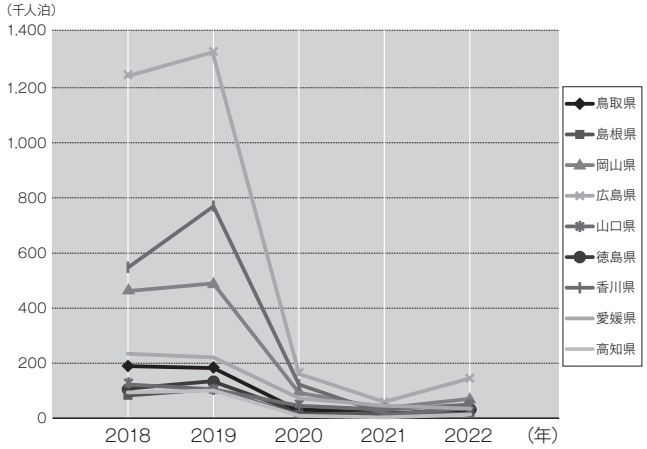



（単位：万人泊）

| 都道府県名 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 鳥取県 | 356 | 289 | 212 | 229 | 188 |
| 島根県 | 298 | 364 | 245 | 262 | 287 |
| 岡山県 | 561 | 566 | 377 | 371 | 458 |
| 広島県 | 990 | 1,163 | 675 | 584 | 853 |
| 山口県 | 435 | 376 | 311 | 330 | 392 |
| 徳島県 | 222 | 257 | 145 | 160 | 184 |
| 香川県 | 405 | 466 | 253 | 227 | 324 |
| 愛媛県 | 425 | 439 | 300 | 254 | 376 |
| 高知県 | 301 | 290 | 196 | 191 | 256 |

資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」をもとに（公財）日本交通公社作成

**図Ⅳ-6-2　外国人延べ宿泊者数の推移（中国・四国）**




（単位：千人泊）

| 都道府県名 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 | 2022年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 鳥取県 | 195 | 185 | 34 | 11 | 12 |
| 島根県 | 73 | 104 | 13 | 11 | 11 |
| 岡山県 | 469 | 487 | 74 | 22 | 59 |
| 広島県 | 1,237 | 1,322 | 169 | 43 | 143 |
| 山口県 | 123 | 104 | 32 | 20 | 49 |
| 徳島県 | 116 | 134 | 20 | 10 | 18 |
| 香川県 | 546 | 772 | 81 | 14 | 34 |
| 愛媛県 | 230 | 216 | 58 | 35 | 33 |
| 高知県 | 79 | 95 | 17 | 9 | 10 |

資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」をもとに（公財）日本交通公社作成

### (2)観光地の主な動向

#### ①地方・都道府県レベル

**●四国カルスト5市町連携による広域連携推進協議会が発足**

四国カルストを有する高知県の津野町、梼原町と愛媛県の久万高原町、内子町、西予市の5市町は、四国カルストを軸にした周遊観光を促すことを目的に、2023年3月に観光振興で協力する包括連携協定を締結し、同年4月、広域連携推進協議会を設立した。初年度は、幹事会のほかプロモーションやコンテンツ開発、人材育成等の分科会を設け、事業の具体化に着手した。SNSによる広域的な情報発信や域内を巡るスタンプラリーイベント、観光人材の交流と育成に資する研修事業等に取り組む。

**●鳥取県大山山麓エリアで2次交通整備の動きが活発化**

大山隠岐国立公園の大山山麓エリアでは、2022年10月から12月にかけて、経済産業省の「地域新MaaS創出推進事業」に採択された観光周遊交通の実証事業が実施された。MaaSを活用し、JR米子駅と大山寺をつなぐ直通バスや乗り放題の乗り合いタクシー等を利用できるシステムを検証した。

また大山寺地区では2022年9月から11月にかけて、米子市のタクシー会社が大山町の委託を受け、電気自動車（EV）を活用

した無料の試験運行を実施した。車両は時速20km未満で公道を走ることができる小型のEV（グリーンスローモビリティ）で、乗車定員はドライバーを除く4人乗り。急勾配の参道を往復し、観光資源としての可能性や来訪者の満足度向上への効果等が検証された。

**●鳥取県と共同事業体が「とっとり宿泊予報プラットフォーム」を開発**

2022年11月、鳥取県内の旅館やシステム設計会社等でつくる共同事業体が、ビッグデータを活用して個々の旅館の半年先までの宿泊者数予測を行う「とっとり宿泊予報プラットフォーム」の完成を発表し、2023年4月からサービス提供を開始した。同システムは、鳥取県と共同事業体が経済産業省の研究事業の交付を受けて開発を行った。

同サービスは宿泊施設が保有するホテル管理システム（PMS）等の宿泊データと地域データ等をもとに、AIによって宿泊者数を180日先まで予測することができる。利用宿泊施設は、客観的な予測に基づく休館日や価格の設定、在庫の最適化等が可能となり、業務効率化と売り上げ増が期待できる。

**●香川県が「さぬきの棚田アワード」ですぐれた棚田20か所を認定**

2022年5月、香川県は、中山間地域に広がる棚田の魅力を県民に伝えるため、「さぬきの棚田アワード」として県内20か所の棚田を認定した。同アワードは、県内にある棚田の魅力を広く県民に伝えるとともに、香川の美しい原風景を後世に残すことを目的としている。棚田の専門家等、外部委員が審査を担当した。

募集は2021年9月から11月に行い、38か所から応募があった。農地傾斜が概ね20分の1以上のまとまりのある田または畑で耕作放棄地になっていないことが基本要件として据えられ、棚田を中心とした良好な農村風景であることや、保全、地域活動が活発に行われているか等の観点から、高松市や東かがわ市、小豆島町等5市5町の田んぼ18か所と畑2か所の計20か所が選定された。

**●鳥取県、島根県の民間連携による「神話の國 箸詣の会」発足**

2022年11月、『古事記』のスサノオノミコトの出雲神話にちなみ、出雲地方を「箸発祥の地」として売り出す「神話の國 箸詣の会」が島根県出雲市内で発足した。8月4日の「箸の日」の箸供養等を観光イベントとして発信し、観光客を誘致する。

加盟者は島根県松江市の玉造温泉、鳥取県米子市の皆生温泉を含む市内外の宿泊業者等22事業者23施設で、それぞれの施設で宿泊客に、古くなる等して使わなくなった箸の回収袋「おかえり袋」を配る。寄せられた箸は、出雲市にある万九千神社で箸販売業者が営む箸供養で焚き上げる。

**●アプリで高知県内の植物を探すゲーム企画「土佐の植物博士クエスト」を開始**

2023年2月、スマートフォンを使ったゲーム企画「土佐の植物博士クエスト」が始まった。生物情報アプリ「Biome（バイオーム）」内で、バイカオウレンやサカワサイシンといった高知県出身の植物学者・牧野富太郎博士にちなんだ植物等を集める趣向となっている。

このゲーム企画は観光博覧会「牧野博士の新休日」推進協議会と生物情報アプリを提供している京都大学発のベンチャー企業のタイアップで実現した。高知県内で植物探しを楽しんでもらい、域内周遊につなげる狙いがある。

このアプリを使って動植物を撮影すると、名前が自動でAI判定され、自分の「図鑑」もつくることができる。情報は生物分布データとして集約され、環境保全に役立てられるという。無料で利用でき、2022年9月時点で63万回以上ダウンロードされている。

**②広域・市区町村レベル**

**●鳥取砂丘コワーキング施設「SANDBOX TOTTORI」オープン（鳥取県）**

2022年5月、鳥取市の鳥取砂丘そばにコワーキング施設「SANDBOX TOTTORI」がオープンした。2階建ての施設には年中無休、24時間利用可能な約60席の作業スペースや会議用個室、シャワー室があり、カフェも併設されている。砂丘を一望できるよう窓は一面ガラス張りとなっている。施設では利用者同士の交流が生まれるように、勉強会やマルシェ等のイベントも実施される予定。都市圏に本社を置く企業のサテライトオフィス利用や、旅先で働くワーケーションの利用者を誘致する。

**●益田市で伝統芸能のユニバーサルツーリズムを促進するモニターツアーを実施（島根県）**

2022年12月、島根県西部の伝統芸能・石見神楽を視覚や聴覚に障がいがある人にも楽しんでもらうことを目的に、誰でも気兼ねなく楽しめる「ユニバーサルツーリズム」のモニターツアーを一般社団法人益田市観光協会が実施した。ツアーでは視覚・聴覚障がい者、付き添い人等の計15人が参加し、観光協会スタッフの案内で、高津神楽社中が披露する演目の衣装や小道具に触れ、手触りや重さを確かめた。公演中は具体的な動作をイヤホンを通して音声で説明したほか、モニター画面の字幕や手話通訳士の手話で口上を伝えた。ユニバーサル仕様の公演は、2023年度の上期・下期に各1回組み込まれる予定となっている。

**●岡山市が「自転車活用推進計画」策定（岡山県）**

2022年4月、岡山市は、自転車を活用したまちづくりを進めるための「岡山市自転車活用推進計画」（2022～2031年度）を策定したことを発表した。自転車と観光を結び付ける「サイクルツーリズム」の推進に向け、新たなサイクリングルートの検討に着手する等の目標を盛り込んだ。新ルートは市内3ルート目となり、市が初めて独自で設定する。推進計画では2031年度を目標とする全8項目の数値目標を設定しており、市中心部で展開するコミュニティサイクル「ももちゃり」の1台当たりの一日平均貸出回数（回転率）の引き上げ、自転車利用者の損害賠償保険加入率100％等が掲げられている。関連して、

2022年11月には「ももちゃり」の利用促進を目的に、無料利用カード6,000枚を配布するキャンペーンを実施した。岡山市は2012年に「自転車先進都市」を掲げ、誰もが自転車を安全で便利に楽しく使うことができる都市を目指している。

**●岡山城の天守閣が「令和の大改修」を経てリニューアルオープン（岡山県）**

2022年11月、岡山城が「令和の大改修」を経てリニューアルオープンした。岡山城では1966年の再建後初となる大規模改修が2021年6月から行われ、天守閣の外壁は創建当時の「漆黒」に塗り直された。

全面刷新された天守閣内にはプロジェクションマッピング等の映像設備や体験型のブースが新設され、岡山城の歴史と魅力をわかりやすく紹介している。1階には刀の重さを体感したり、江戸時代の駕籠に乗って写真撮影したりできる体験型展示を設けた。

また、岡山城では2018年から天守閣の夜間貸し切り提供を行っており、改修に伴う休止期間を経て2022年12月に再開した。再開にあたり、岡山市は多目的スペースを2倍に拡張し100人の収容を可能としたほか、控室や映像設備を新設し利便性を高めた。

**●福山城が築城400年の改修を経てリニューアルオープン（広島県）**

福山市の福山城が2022年8月にリニューアルオープンした。改修工事は築城400年を記念して2020年10月から実施された。改修では耐震補強とともに、天守の外壁に防御のために施されていたとされる「鉄板張り」を復元する等、外観を江戸前期の姿に戻した。天守内にある博物館は展示内容を一新し、楽しみながら歴史を学べる体験型の施設となっている。馬の模型にまたがって武将の気持ちを味わえるコーナーを設けたほか、レプリカの火縄銃による射撃体験もできる。

また2022年10月には宿泊客が閉館後の天守内の博物館や、通常は年1回公開の伏見櫓、湯殿等を貸し切りで利用できる「城泊」の実証実験が行われた。城泊では一日1組を「一日城主」として受け入れ、城ゆかりの能の演舞や琴の演奏、地元の食材を使った料理等を提供した。

**●宮島・厳島神社の大鳥居が70年ぶりの大修復完了（広島県）**

2022年12月、厳島神社が進めていた約70年ぶりとなる大鳥居の大規模修復工事が完了した。宮島を象徴する文化財の傷みを直す修復工事は2019年6月から約3年半続いた。海水やシロアリの被害で劣化が進んだ主柱をステンレス製のバンド等で補強し、耐久性のある化学顔料等を使って朱色を塗り直した。

**●福山市が鞆町の町並み保存拠点施設「鞆てらす」を開設（広島県）**

福山市は2022年7月、鞆町の町並み保存拠点施設「鞆てらす」を開設した。

同施設は明治期の町家を改修したもので、木造2階等の4棟から成る。潮待ちの港をテーマにした日本遺産のPRコーナーでは、大型モニターで常夜燈や船番所跡といった日本遺産を構成する文化財等の魅力を紹介する。地域の伝統的建造物に見られる建築技法を伝えるコーナーや、鞆町の四季折々の祭りや行事を紹介するコーナーもある。子どもの遊び場や観光客の休憩スペースも備える。伝統的建造物の修理や空き家の活用に関する相談室も設けられており、観光客の案内のほか、移住希望者と空き家所有者のマッチングにも取り組む。

**●徳島の阿波おどりが3年ぶりに観客を入れて開催（徳島県）**

徳島市の夏を彩る「阿波おどり」が2022年8月、3年ぶりに屋外の演舞場に観客を入れて開催された。屋外に有料と無料の演舞場を2か所ずつ、舞台上で踊る広場を4か所設置した。感染症対策として、観覧席の収容率は約75%に抑え、消毒器具を増設する等した。「阿波おどり」はコロナ禍の影響で2020年は中止となり、2021年は規模を縮小して実施していた。

**●源平合戦の舞台・屋島に交流施設「やしまーる」が開業（香川県）**

2022年8月、源平合戦の舞台である高松市の屋島で、観光客の来訪を促す交流施設「やしまーる」が開業した。2013年に策定した屋島活性化基本構想に基づき整備を進めたもので、観光活性化の起爆剤として期待されている。

施設は全長約200mの回廊型で、屋根には特産庵治石の瓦約3万枚を使用した。屋島の歴史や自然を学ぶことが可能で、パノラマ展示室では源平合戦をテーマにしたアート作品が鑑賞できる。高松市街を一望する展望スペースや多目的ホール、文化観光情報案内スペース、飲食・物品販売スペースも設けられた。

**●道後温泉で湯治をテーマにした誘客に向けた取り組みを強化（愛媛県）**

松山市の道後温泉が湯治をテーマにした誘客強化の取り組みを始めた。道後温泉旅館協同組合青年部が各施設に呼びかけ、20軒以上の旅館やホテルが参加している。

取り組みでは入浴指導に必要な資格「温泉入浴指導員」を旅館やホテルの従業員が取得し、宿泊客の年齢や健康状態に応じ入浴時間や休憩のとり方を提案するプログラムを作成した。料理も海藻や果物等、体内の毒素排出を促す効果が期待できる食材を取り入れているのが特徴となっている。2023年からは宿泊プランの提供を開始しており、温泉での入浴プログラムに加え周辺の観光スポットを巡るモデルコースが設定されている。

**●大洲市が県内初の「世界の持続可能な観光地」に選出（愛媛県）**

オランダの非営利団体で国際認証機関のグリーン・デスティネーションズが選出する2022年の「世界の持続可能な観光地100選」に同年10月、県内で初めて大洲市が選ばれた。市内の古民家をホテルやショップに改修し、観光活性化や町並み保全につなげる同市の観光地域づくり法人（DMO）キタ・マネジメントの取り組みが評価された。

キタ・マネジメントは、市中心部の肱南地区の景観を形成する築100～200年以上の建物を、行政や金融機関と連携して地元住民の理解を得ながら宿泊施設等に改修し、古民家自体が維持保全のための収益を生み出す仕組みづくりに取り組んできた。今回の選定では、空き家の解消や市の認知度向上等にもつなげたことが評価された。

**●ジオパークの発信拠点「四国西予ジオミュージアム」が開館（愛媛県）**

四国の西南地域に位置する四国西予ジオパークの情報発信拠点となる博物館「四国西予ジオミュージアム」が2022年4月、西予市にオープンした。

館内には市内の自然や文化の特徴を解説する有料の常設展示室と、無料のカフェスペースやギャラリー空間がある。化石や植物の標本約150点を集め、施設内で楽しめるアプリを使ったゲームも導入したほか、屋外には市内で採取した岩石を埋め込んだ遊具を備えた。来場者は約4億年前の岩石に触れたり、ジオパークの見どころを動画で調べたりできる。

**●須崎市中央商店街に観光施設「須崎大漁堂」がオープン（高知県）**

2022年12月、須崎市青木町の中央商店街内に、カフェや特産品の物販スペースを備えた同市の観光施設「須崎大漁堂」がオープンした。市や高知信用金庫等が進める「海のまちプロジェクト」の一環で、市街地の新たな集客拠点として期待されている。

同施設は市が高知信用金庫の寄付やふるさと納税寄付金等を活用し、旧高知銀行須崎支店を改装して整備した。運営は同プロジェクト推進協議会が担い、カフェではマダイや四万十ポークのカレー、地魚の刺し身定食等、市や近隣町村の食材を活かしたメニューを用意する。売り場には特産品が並び、アンテナショップの役割を担う。今後は同施設を中心とした空き家や空き店舗の活用といったプロジェクトの企画を進めていく予定となっている。

**●「桂浜 海のテラス」が約40年ぶりのリニューアルを経て全面開業（高知県）**

2023年3月、高知市浦戸の桂浜公園の商業エリア「桂浜 海のテラス」が約40年ぶりの大幅リニューアルを終え本格開業した。

同エリアは高知市が土産物店や飲食店が入っていた商業施設4棟を買い取り、指定管理者で地元企業の土産物会社が改装・新築した。土産物店やカフェ、海鮮レストラン、芋けんぴや雑貨が並ぶ店等10施設以上が運営されている。2022年10月には一部の店舗が先行して開店し、2023年3月には桂浜の歴史や高知の文化を紹介する「桂浜ミュージアム」のほかカフェやラーメン店等が新たにオープンした。

**●高知城丸ノ内緑地のリニューアルが完了し一般開放開始（高知県）**

2023年3月、高知城丸ノ内緑地の再整備が完了し一般開放が始まった。公園を覆っていた樹木が大幅に伐採され、緑地中央には広い芝生広場が誕生した。以前は狭かった空が広がり、天守閣の景観が存分に楽しめるようになった。

緑地は市中央公民館の跡地に市が1976年に開設したもので、国史跡の「高知城跡」内にあるため、大規模な整備はこれまで行われなかった。一方で、自然に生えてきた樹木等も含めた木々で覆われていたことから、市は2020年11月から再整備を進めていた。

**●スマートフォン向けのご当地ゲームで四万十町の魅力をPR（高知県）**

2022年4月、四万十町がスマートフォン向けのゲームアプリ「40010（しまんと）～ヒミツのともだち～」を無料配信した。同アプリは県内外の子どもや若者らに町の魅力を発信しようと企画されたもので、四万十町は愛媛県松山市のゲーム制作会社と約一年かけて開発した。ゲームには四万十川や沈下橋等、実際に町にある観光スポット約90か所が登場し、町の魅力をPRする。

（武智玖海人）